

おたづき探検

発行 キタ美実行委員会
 監修 喜多方市都市整備課、文化課
 デザイン 筑波大学芸術系 PLAY RESILIENCE Lab.
 発行日 2020年5月31日

みんなでつくろう 小田付 重伝建 標識プロジェクトとは? 喜多方市小田付地区は江戸から昭和にかけてできた古いまちなみが印象的な通りで平成30年に文化庁より「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。小田付地区の伝統的建造物(特定物件)であることを示す標識がつくれるにあたり、どんな標識にすると小田付、喜多方の人々が誇りを持ち、見る人が楽しめるかをみんなで考えていくプロジェクトです。喜多方を学び場として長きに渡り訪れている筑波大学原研究室や喜多方市内の学校と連携をはかりながら、まずは小田付の宝物を探る活動を進めてきました。その内容をみなさんにお伝えします。これからの活動にもぜひご協力ください。



ワークショップ「まちなみチャンピオンシップ」

おたづき探検隊、 地域のたからもの 発見!

撮影時間
2020/03/29 11:18

撮影場所
牛頭天王社

ワークショップ「まちなみチャンピオンシップ」優勝作品。小田付に旧くから伝わるストーリーが現在も住民に受け継がれていることが伝わってきます。長い年月、雨風に洗われた木目も美しく捉えられています。(ワークショップ: P3参照)

ワークショップ おたづき探検隊 開催 2020/03/29 [sun] 10:00-14:30

事前インタビュー

おじいちゃん・おばあちゃんにきく小田付

ワークショップに先駆けて、おたづきに長く住んでいるおじいちゃん・おばあちゃんに小田付の昔の風景について取材しました



変わりゆくおたづきと、 変わらないもの

おたづきの昔の風景を子供たちにも伝えたい。その思いから、星さん、江畑さん、田村さんの三人がおたづきのおじいちゃん・おばあちゃんにお話を聞いてきました。道路ができるときになくなってしまった、泳げるほど美しかった水路のお話が印象的です。 P2

ワークショップ1 ワークショップ3

まちなみ調査班&まちなみチャンピオンシップ

小田付を歩き地域の「たからもの(大切なもの、カッコいいところ)」をカメラに収め、その中からおたづきのアイデンティティを探るトーナメントバトルを実施しました



おたづきのいいところって 何だろう?

おたづきのいいところを探すため、小田付地区を歩き回ったおたづき探検隊。小学生から大人まで、参加者は42名。神社の御供物や雪が積もった木の様子など、大人には見つけることのできない、子供たちの面白い視点に注目です。 P3

ワークショップ2

かまど基地

昔ながらの竈でご飯を炊き、会津の伝統料理「こづゆ」をつくりながら、喜多方、そして小田付の魅力について考えました。おにぎりとかづゆはお昼に美味しくいただきました



かまど基地と、 そこから見た喜多方のまちと人

つくばで一汁一菜の朝ごはん屋さんを営む小竹拓真さんは、筑波大学在籍中のアートプロジェクトをきっかけに喜多方を訪問。以降、喜多方に20回以上訪れています。今回はこづゆとおにぎりの準備、調理担当として参加。こづゆづくりを通じて見つけた喜多方、そして小田付の魅力を語ります。 P4

小田付重伝建標識のデザインコンセプト(案) P4

事前インタビュー：おじいちゃん・おばあちゃんにきく小田付

変わりゆくおたづきと、変わらないもの

おたづきの昔の風景を子供たちにも伝えたい。

その思いから、星さん、江畑さん、田村さんの三人がおたづきのおじいちゃん・おばあちゃんにお話を聞いてきました。道路ができるときになくなってしまった、泳げるほど美しかった水路のお話が印象的です。

小川光江さん
大島チエさん
大島タイコさん

85歳から90歳のなかよしおばあちゃん。小田付に60年以上住んでいるそうです。インタビューは小川さんのお家のこたつで行われました。お茶とお菓子をたくさん用意してくださり、会津のひとが大好きな「お茶飲み」さながらでした。当プロジェクトの世話役で2軒隣に住む星宏一さんも会話に加わりました。

たけのこでも何でも採りに行ってたよ。

はじめまして、田村と申します。江畑です。よろしくお願ひします。今日は、みなさんの昔のお話を聞かせていただけたらと思います。

小川 いちばん変わったのは、その新しい道路。

大島(チ) 水が綺麗だったから洗い場があって、そこで色々洗った。洗濯をゆすいだりしてたね。

大島(夕) 梅の木がそこらにあって、低かったべさ道路が。堀があって。きれいだった昔は。夏は行水してた。梅の木があったんですね。

大島(夕) ここの道路全部に梅の木があった。今はほとんど無いね。この道路ができるときに切っちゃった。大きな梅がなくなってたんだよ。

小川 どこのうちにも梅はあったべな。梅漬けもどこにでもあったの。みんな日の丸弁当って言って、おかずに入ってた。星 その頃は皆さん、野菜の泥を落としたり鍬をあらったりされてましたね。

大島(夕) 今の小学校の前に川が流れてて、学校帰りにシジミ採りしてたね。星 僕も自転車で出かけて魚を獲って、甘露煮にもらってた。

大島(夕) これどうぞ。これはニシンの山椒漬けといって、こづゆと同じで会津の食べ物。干してあるやつを使うんですか？

大島(夕) そうそう、今だと魚はどんどんくんべしさ。昔は新潟からリアカー引っ張ってくるじいちゃんがいったりした。新鮮な魚なんて食べられなかったから、保存食にして、こういう風にして食べるの。スーパーにも売ってんべ。これは手作り。ちゃんと山椒が入って、こんなにってるんだよ。

小川 うどとニシンを煮ると美味しいよ。煮物にしてな。これはくるみを砂糖醤油で絡めたの。どうぞ。

大島(夕) くるみを食べると頭に良いの。くるみと、脳みその形が似てるでしょ。だから子供が生まれたら、ちっちゃい時から食わすといいの。くるみを潰してふき味噌を作った。

小川 くるみ餅がうまかった。擦ってよくやったね。

こづゆの作り方と材料をぜひ教えてください。

大島(チ) 里芋でしょ。人参、たけのこ、まめふ、きくらげ、貝柱、椎茸。たけのこは、細い笹竹。祝い事の時、色のついたまめふ。この七つは必ず入れなさい。こづゆの素だな。入れる材料の数は、昔から奇数って言われてるの。ごぼうは入れる人は入れるかな、私たちはこづゆには入れなかったね。青味は、ほうれん草でもさやえんどうでも何でも。上にちょっとのせるのね。前の晩から貝柱と椎茸をうるかして出汁にする。前の晩からじゃないと、椎茸の香りがしない。里芋はぬめりが取れるくらい茹でて、アクが出るから、それを取りながらしょっぱさを加減していく。作っていると、だんだん加減が分かってくる。

小川 貝柱と椎茸はなんでかんでいれんだべ。それがこづゆのきまりだな。

大島(チ) 昔はな、たけのこでも何でも採りに行ってたよ。

大島(夕) 桑の木もいっぱいだったから、採りに行ってな。桑の実も採ってたべ。戦争中は、おやつつうのはねえだから。

小川 細竹を切ってな、節のそこ穴開けてな。杉の木を揺らして実を落として、玉にして鉄砲みたいにしてた。山のさくらんぼも食べてたな。小学校の頃、戦争中は防空壕掘って。戦争が終わったら、校庭さは中央の正門だけ残して、あとは全部鍬で掘って豆をまいた。

大島(夕) 今はみな学校になったとこ、耕してさつまいもを植えたの。豆まいて、あっ生えだなーって喜んで。昔はな、トラックなんかなくて馬車押したべ。

小川 ご飯は食べれなかったから、昼になったら表さ行ったよ。町の人は市役所から弁当届けてもらってね。おかずはそれこそ、味噌漬けと梅漬けくらいだった。ここに住んで何年ですか。

大島(夕) 60何年になるね。子供の時から、ここのおたづきのお祭りに来てた。ずっと昔からあるの。今はね、喜多方の全部から太鼓台が二十何台出て出るの。(注)各町内からみんな出て、太鼓台を引いて。**大島(チ)** 喜多方は塗りだべ、漆塗り。菅原町のは立派だね。塗り師さんがいっぱいだからな。昔から塗り屋がいっぱいあるの。

星 本当は子供たちとお話して欲しかったんだけど、今日はこのような形になりました。

梅の木もいっぱい植えたいな。町を元気にしたいですね。

大島(夕) あなた達は若いから、ここを探検して、昔のことをいっぱい子供たちに話してくださいね。どうもありがとうございました。

Interviewed on March, 25 2020

(注) 30年ほど前から、8月15日に喜多方夏祭りの目玉として、双方の地区からほぼ全ての太鼓台が参加して市内を練り歩き、最後に、ふれあい通りで太鼓台競演と称するお囃子合戦をする。

大湊泰吉さん

惜しまれつつ廃業した明治12年創業の豆腐店の4代目当主、昭和12年生まれ。

矢部栄助さん

祖父の代まで「大亀(大阪屋亀吉の略)」呉服店、南町の前町内会長、昭和16年生まれ。

インタビューは、新金忠の大正浪漫調の洋室で行われました。

昔は水がほんと綺麗だった。側溝で流されて遊んだり、行水したりしたもんだよ。

今日は世間話のような感じで小田付通りについて聞いていけたらいいなと思います。よろしくお願ひします。

大湊・矢部 よろしくお願ひします。ずっと小田付通りに住まわれているんですか？

矢部 私は生まれ育ってほぼ70年小田付にいます。

お店か何かされてたんですか？

矢部 私のうちは昔はやってたけど、私の父の代からやってないですね。でも小田付は商店まちで、両隣のうちも正面も商店だったからそれを見て育ちました。まちなみは当時から結構変わりましたか？

矢部 変わったよ、その当時からはね。やっぱり小田付がいちばん変わったのは道路できてからかな。

大湊 そうだな。それまでは雪で使えなかったからね。

道路が通ったのはいつ頃だったんですか？

矢部 昭和40年代のはじめ頃だったかな。その頃道路が三浦さんから東に大塩街道が抜けて変わったね。その頃から通りにお店がたくさんできてまちなみが変わり出したんだよね。

大湊 通りに米屋とか酒屋に呉服屋があってショッピングモールみたいだったんだよね。夕方になるとみんな通りに集まって鯨ベーコンつまみにお酒飲んで、それがうまそうで子供の頃憧れたもんだよ。一同 (笑)

矢部 あと昔は水がほんと綺麗だった。まちのどこでも水が流れてたからね。

大湊 そうそう、だから子供の頃はプールなんてなかったから側溝で流されて遊んだり、行水したもんだよ。でも今は地下水もだいぶ減ったね。

矢部 あの頃はありがたいともなんとも思わなかったけど無くなってからありがたさに気づいたね。

本当に水が豊富だったんですね。次にお祭りの様子も聞きたいなあって思ってたんですけど、昔のお祭りってどんな感じだったんですか？

大湊 お祭りは出雲神社の小田付全体のお祭りと町内だけの小さいお祭りの二つあったんだよ。そこで縁日の日になると盆踊りやったり、芝居やったり、映画上映したり、まちの娯楽だったんだよ。子供の頃の思い出です。

矢部 そうだな、昔は各町内に小さい神社があって、地域をまとめるための拠点だったんだよ。それら全体を統括するのが小田付では出雲神社だったんだよ。その名残はいまでも残ってて今でもお祭りはやってるよね。

質問したいことのひとつに小田付のシンボルは何かというのがあって、ひとつは水だと思うんですけど、出雲神社はどうですか？

大湊 小田付としてひとつになるのはやっぱり出雲神社なんじゃないかな。この何十年かの間にすごく色々な変化があったんですね。

矢部 良い変化もいっぱいあったけど大切なことを色々忘れないようにしたいですね。

大湊 いちばんはそういったものを次の世代につなげていけるといいねえ。

今日はすごく面白かったです。どうもありがとうございました

大湊・矢部 こちらこそどうもありがとうございました。少しでもお役に立てたら良かったです。

Interviewed on March 24, 2020



Illustration: Kaori Ebata

ワークショップ: まちなみ調査班 & まちなみチャンピオンシップ

おたづきのいいところって何だろう?

おたづきのいいところを探すため、小田付地区を歩き回ったおたづき探検隊。小学生から大人まで、参加者は42名。神社の御供物や雪が積もった木の様子など、大人には見つけることのできない、子供たちの面白い視点に注目です。



「おたづきのいいところ」を再発見するために、幼稚園生、小学生、中学生そして大人たちが、会陽館に集まりました。「まちなみ調査班」では子供と大人が混ざって3つのチームを作り、小田付地区を探検しました。当日は雪が降っていましたが、子供たちは夢中になって小田付のいいところを探し、たくさん写真を撮っていました。子供たちの撮った写真は、下記の「まちなみ調査マップ」で一部紹介させていただきます。その後、写真をみんなで鑑賞し、その写真の中から「おたづきのいちばんいいところ」を見つけたチャンピオンを決めました。今回、チャンピオ

ンになったのは、表紙で紹介した「牛頭天王社ときゅうりの神様」の写真です。会場の子供たちからは「何できゅうりのなの?」「誰が食べるの?」といった声が飛び交いました。撮影した中学生は、小田付には河童の伝承があり、きゅうりの神様として今も親しまれていることをおばあちゃんに教わったと話していました。小田付の生活や人々の思いを上手に切り取ることができています。ワークショップを通じて、子供から大人まで一緒に楽しみながら小田付地区を探検し、小田付のいいところをたくさん探すことができました。

おたづき探検隊 まちなみ調査班

まちなみ調査マップ



瓜生岩子の銅像

喜多方に生まれ、日本のナイチンゲールとも呼ばれた瓜生岩子。北町公園から小田付のまちなみを見守っているようにもみえる。



佐牟乃神社

北町公園内にある。雪が積もり厳かな雰囲気。公園の地面には雪によってできた不思議な光景。



喜多方の蔵元、夢心酒造と、その敷地内にある一本の木

幾何学的な建物と木の不思議なコントラスト。木に雪が積もり満開の桜のよう。



小道とその奥に見える鳥居

稲荷神社が路地裏にひっそりと佇む。静けさが漂うが、足跡を見れば人々の生活の気配。



出雲神社の狛犬

近くに公園があり子供たちの遊び場でもある神社。夏祭りのために帰省する若者も多い。



稲荷神社境内のお稲荷さん

凛々しい立ち姿だが、雪の帽子が可愛い。稲荷神社北側には、かつて小田付代官所があった。



“ホ”に見える蔵の屋号

普段の風景も、見方を変えれば新鮮に変わる。忘れがちな視点を思い出す一枚。



- Appleチーム
- 虹色チーム
- さみしくないよチーム
- 小田付地区
- 伝統的建造物



小田付に点在する蔵のひとつ

雨樋を伝う雪解け水の音。小田付らしい風景。伝統的な外観だが、現代的に活用されている。



牛頭天王社ときゅうりの神様

河童の神様へのお供物とのこと。神社ときゅうりの組み合わせがユニークで、何とも愛らしい。



喜多方の煉瓦で作られたお家

撮影者の小学生は、「かっこいい!」と言って道路の反対側から一生懸命にカメラを構えていた。



蔵屋敷あづまさの中に置かれていたお人形

漆の作品がたくさんある中で撮影者はこの人形の優しそうな顔に惹かれたと話していた。



蔵屋敷あづまさのギャラリー内にある、観音開きの造り屏

チームのみんなが撮影したほど子供たちは興味を示していた。

ワークショップ: かまど基地

かまど基地と、そこから見た喜多方のまちと人

つくばで一汁一菜の朝ごはん屋さんを営む小竹拓真さんは、筑波大学在籍中のアートプロジェクトをきっかけに喜多方を訪問。以降、喜多方に20回以上訪れています。今回は、「かまど基地」にこづゆとおにぎりの準備、調理担当として参加しました。小田付のみなさんとのこづゆづくりを通じて見つけた、喜多方、そして小田付の魅力を語ります。



竈炊きごはんの塩にぎり。喜多方の美しい水で育った「ひめさゆり米」を、おたづきの水で炊きました。

僕が初めて喜多方を訪れたのは2014年4月喜多方駅前の米蔵での「米ジェクションマッピング」のお手伝いでした。(星宏一さん、お世話になりました!)それから、かれこれ20回は喜多方を訪れています。

2016年に卒業して酒造会社に就職し、昨年夏にかねてより挑戦したかった朝ごはん専門の小さなお店を始めました。大学近辺の知人の営む飲食店の店舗を間

借りし、営業しています。この原稿を書いている現在は感染症の影響もあり一時休業中ですが近いうちにまた、近くで暮らす人々の朝のコミュニティとして再開出来ればと考えています。

僕は今回のワークショップで、「かまど基地」、竈炊きごはんのおにぎり、会津の郷土料理こづゆづくりを担当しました。本来の企画としては、小田付に長く暮らす

方々から郷土料理を学びつつお話を伺い、「まちなみ調査班」とは違った視点から小田付の地域資源を探ろうというものでした。残念ながら今回は炊出しに徹することになりました。

こづゆは喜多方のみなさまには馴染み深いものでしょうし、僕の作る塩むすびも特別なものではありません。かまど基地で僕があらためて感じたことは、出汁を丁寧に取ったり具材を食べやすい大きさに切ったりというこづゆの調理方法が、喜多方の人々と同じ優しさ溢れる味わいを生むこと。火を起こして気にかけてお米を炊く。食べる人のことを想って握る。それを近くの人と一緒に味わう。そこに楽しい時間が流れていました。調理中にも、各家庭で少しずつ異なる個性があるレシピや、郷土料理としての背景について教わりながら江畑さんをはじめお手伝いいただいた様々な人たちと分担して協力しあいました。より優しい味わいを想って工夫しあったことが、大きなコミュニケーションと交流を生むいい試みであったように思います。

寒い雪が降るなか、まちなみ調査を終えた小さな探検隊たちと参加者のみなさま

が、こづゆと塩むすびで温かい時間を過ごせていたのではないかととても嬉しい気持ちでした。日を改めて開催して、楽しい交流の時間を持つことができるようなときを願っています。

雪の喜多方は久しぶりでしたが、改めて喜多方にもたらされる水の清らかさに驚きました。野菜、お米、お酒からは勿論ですし、今回はラーメンスープからも! からだに入っていきもの全てに水があり、それを最大限使いこなす人々が暮らしている。そして喜多方には地元への愛着と向上心があります。それが僕たちを何度も喜多方へ連れてくるのだと思います。ワークショップは小田付重伝建標識プロジェクトを進める喜多方のみなさん、筑波大学原研究室にとっても、新しい視点から見慣れた風景を見るきっかけになったのではないのでしょうか。子供の視点は新鮮で大切な小田付の地域資源であると感じました。コンパクトなコミュニティーを維持する小田付で、子供たちが大きく成長した時にも誇れる標識ができるよう、自分の大好きな食べること(飲むこと!)でお力添え出来ればと思っています。これまでのように喜多方へ足を運び、関わり続けていきたいと思っています。(小竹拓真)

小田付重伝建標識のデザインコンセプト(案)

道具であり、おもちゃでもあるようなデザインが好きです。「おたづき探検隊」は楽しく探検しながら地域資源を見つけられるよう設計しました。ワークショップを通じて、水路、建築、それらをつなぐ空間など、豊かな地域資源を再確認しました。そして、「きゅうりの神様」のようにその背景にあるストーリーが子供たちにいきいきと語り継がれている様子に感激しました。おたづきの物語を探して、可視化して、また新しい物語が生まれる。そんなふうには、おたづきの探検が続いていくきっかけになるような標識がデザインしたいと思いました。(原忠信)

デザインコンセプト

美しい水路。酒蔵。たくさん神社。
暮らしを語る建築。セミパブリックな場所。
会話が楽しめるお店。
地域を愛し良くしたいと思っている人。

おたづきのストーリーは 尽きない地域資源だ!

実現したいアイデア

- ・おたづきのストーリーを可視化する
- ・ストーリーを子供たちへ語り継ぐ
- ・水路・歴史・建築など、テーマを決めてセルフツアー(探検)ができる
- ・小田付の景観を損ねない控えめなデザイン
- ・小田付=どこへでも歩いていけるまち(コンパクトシティ、脱クルマ社会)
- ・おたづき探検を継続して新たなストーリーを発見するサステイナブルなスキームをつくる

編集後記 筑波大学芸術系 PLAY RESILIENCE Lab.

子どもたちの写真を見て、無垢な視点と言えは有り体ですが、私たちの視点との大きな違いは付度や先入観がないということが大きいのではないかと感じました。私たちはつつい、ここを見てもらいたい、ここは撮らない方がよいのかな、などと余計なことを考えてしまいます。そのような意味で、街の魅力の発見、再発見という目的では大きな意義があったのではないかと感じています。(岸本健)

残念ながら当日は参加できなかったのですが、何度も訪れた喜多方のまちを思い出しながら編集のお手伝いをしました。子供たちの写真では、これまで気付かなかった小田付のいいところが切り取られていて、その自由さと感性に驚きました。すべての写真からストーリーが読み出されていて、それらが暮らしの中で語り継がれているのが喜多方のすばらしさだと再認識しました。サインも、豊かな暮らしの一部となるものにできたらと思います。(綱川椎菜)

私は喜多方への訪問は5回目になります。喜多方の魅力に触れ、この様な形で地域作り支援に関わることができて嬉しく思います。地域資源を見つけ出すために、今回のワークショップでは、実際に歩いて探検を行いました。子供たちは「水の落ちる音がいいなあ」といった五感を使って小田付の魅力を見つけていました。サイン計画に向けて、こうした五感で味わった小田付の魅力も落とし込むことができればいいのではないかと考えます。(関耕平)

プロジェクトを通して初めての土地、初めての文化に触れられたことが嬉しかった。雪の日の朝に食べたラーメンの味、水路の中でゆったり動く水面、出会った人々との会話。二日間とは思えないほど濃厚で忘れがたい体験となった。ワークショップでは街に暮らす当事者の素直な視点、子供ならではの柔軟な発想がいきいきと写真に表れているように感じられた。街づくりを考える上でも、次世代をになう子供達は重要なキーワードになるのではないだろうか。(中峯大樹)

私は今回初めて喜多方を訪れました。強く印象に残っているのは、そこで出会った人々です。喜多方の人は、みんな地域の伝統や言い伝えを教えてくださいました。そして、みんな今よりももっと、この町を素敵にしたいという思いを持っています。昔からのストーリーを受け継ぎながら、今を生きている。そんなこの街の魅力を伝えたいと、今回の訪問を思い出しながら強く感じています。(佐藤瞭太郎)

喜多方はいつの間にか僕の大好きなまちになりました。初めて会った見知らぬ僕にうまいラーメン屋を教えてくださいましたおじいちゃん、お酒に酔いすぎて帰れなくなった僕を夜遅くなのに迎えに来てくれた民泊のおばあちゃん、報告書を作っているとそんなあったかい人たちの顔が浮かびました。僕は彼らにたくさん小田付のいいところを教えてくださいました。この報告書で少しでも小田付のいいところが伝われば嬉しい限りです!(西城裕太)

商業施設などの要素を取り入れるのではなく、そのままそっくり街の姿を残して、人が訪れたい場所にしたと感じました。路地の小さな隙間、パッと見た足元など一部切り取った部分が画になる地です。初めは飽きっぽかった中学生の子も、道案内をしながら写真を撮る行為を通して、改めて自分の街を楽しく見ているような気がしました。初めての喜多方でしたが、一つのコミュニティの豊かな生活に直接触れることができ、心も体もたくさん栄養をもらいました。(照屋明花)



発行 キタ美実行委員会 (お問い合わせ:事務局 TEL 0241-23-5188 五十嵐)
協力 筑波大学芸術系原研究室, a good day Co., テクノアカデミー津観光プロデュース学科, 喜多方市
デザイン統括 原忠信 (筑波大学) デザイン・編集 岸本健, 関耕平, 綱川椎菜, 中峯大樹, 佐藤瞭太郎,
西城裕太, 照屋明花 (筑波大学) Special Thanks 小川さん, 大島チエさん, 大島タイコさん,
大湊さん, 矢部さん, ワークショップ参加者のみなさん, 金澤先生&喜多方一文化部のみなさん

キタ美

